

# グリーンエコノミーを支える「日本の」都市の在り方 ～和の棲家としての「まち」を考える～

---

株式会社 大和総研  
調査本部 河口真理子  
2017年3月7日

# 「東京大改革:ダイバーシティ・スマートシティ・セーフシティ」～ 都市が変わる

「地方再生」+「東京大改革」+「IT」⇒「都市⇔農村」の関係性の流動化

- ・ 機能「都市(商業・製造・金融)」&「地方・農山漁村(一次産品供給)」による分業体制
- ・ 「エコノミー」(オフィス街)「ショッピング」「シャドウエコノミー」(ベッドタウン)「ちょっとだけ文化」と機能別に場所を分断



- ・ 暮らしを支える共同体としての「まち」、「棲家」としての「まち」への模索が始まる:風土と自然・生産活動・暮らしの活動・文化や伝統をはぐくむ場

価値の源泉が替わる :最先端のハイテク・流行製品・サービス(フロー)  
⇒ 伝統・文化に根差した「温故知新」のモノ・サービス (ストック)

観光客ニーズがすでに、交替をけん引 ⇒ ex 浅草

浅草) 茶道、書道、邦楽、着物着つけなど和の教室やサービスの提供。人力車(交通手段)や再生古民家を利用した店舗や江戸の町並み整備

・明治以来軽視してきた「和」の遺産・伝統が改めて売れる価値に。  
では、自家消費する場 棲家には同様の変化が生まれるか？

# 日本の街づくりをどうするべきか

## 和の伝統の再発見・尊重：合理的で高付加価値化が可能

- ◆ 「化石燃料なしの持続可能な街」：人力と自然エネルギー（風・太陽・水・土）と地元の材と技術による持続可能な街づくり
  - ◆ グリーンの中としての「神社と鎮守の森」：
    - ・ 古くから神社は集落を守る鎮守神を祭る場であった。
    - ・ 背後に生物多様性の宝庫である鎮守の森を抱え、津波などの災害にも強い場所にあり、
    - ・ 集落の伝統的なお祭りや、ラジオ体操など集会の場として地域の活動・文化・信仰の拠点
    - ・ 全国の神社数は明治時代初期で18万程度、現在でも8万5千弱あり、5万5千弱のコンビニ数より多いほど身近な存在である。（出所 文化庁「宗教年鑑 平成27年版」、日本フランチャイズチェーン協会「コンビニエンスストア統計調査月報 2017年1月度」）
  - ◆ 「グリーン」の中としての「神社」「鎮守の森」を中心として、地域の生態系循環と、歴史文化に配慮した街づくり。歴史を今に生きる実感、持続可能な地域の在り方、暮らし方。そしてその地域独自性が付加価値に。
  - ◆ しかし、観光客に目を向けた「和のサービス」ではなく、暮らす人にとり一番馴染み、じっくりくる「棲家」としての場づくりが重要。
- 観光客の興味は移ろいやすい。長期的に持続可能な評価は「住民が支持し実践する」かどうか

## 和の伝統・歴史文化の再構築+グローバル化のノウハウとモノと知恵

→ 日本に相応しい 日本人の棲家としての「街」 世界に示せる持続可能な和の価値

## ご参考) 伊勢神宮と式年遷宮

### <伊勢神宮>

- 天皇が国の安寧を願う 天皇家の神社。正式名称「神宮」
- 2000年以上の歴史を持つ。
- 天皇家・国家・公家・大名などの庇護と、庶民からの支持を受けてきた。江戸時代のお伊勢参りブーム時には14万人/日の参拝者の記録もある。

### <式年遷宮>

- 神殿と神宝・装束を新しく造り直し、神様を御遷する儀式。
- 初回の持統天皇の時代から**1300年間原則20年毎に行われる。**
- 神殿・神宝・装束は初回から全て同じカタチを継承。
- 御用材は檜1万本（直径60cm、樹齢200年以上のもの）萱2万3千束（一束25kg）
- 神宝は19種199点、装束は525種1085点。
- 2013年に62回式年遷宮が550億円かけて執り行われた

### <常若>

- 朽ちやすい白木と萱の建物を定期的に壊して再生させ、永遠の若さを保つ。  
=**和のサステナビリティ**

## ご参考)式年遷宮から得られる持続可能な組織と活動のヒント

- **その組織のミッションと価値は、その社会の根源的価値と軸を一つにしている。**
- **そのミッションと価値が共有されれば、時代に即しすぎた合理的と思われる説明は不要。**
- **単なる拡大ではなく、一定の規模となったら継続を目的にする。**
- **絶対に変えない本質を守るために、それ以外は時代に応じて柔軟に大胆に変える勇気を持つ。**
- **日々の業務に従事しながら千年先を想像できる長期の時間軸を持つ人材を育成する。**
- **常にステークホルダーとの良好な関係を維持するための努力(マーケティング、資金調達含め)を継続する。**
- **サプライチェーンの末端に与える社会的・物理的影響を考慮する。**
- **ステークホルダーは平等に扱い、喜んでかかわるような価値を提供する。**
- **自給すべきことはなるべく外部ステークホルダーに頼らず、自己責任として自前で対応する努力を継続する。**
- **経済的にはステークホルダーとは相互依存のwin-win関係を構築維持する。**

## ご参考)和の伝統に息づく、次の千年を持続可能にする智慧

- 「常若」に象徴される、西洋合理主義からは逆の発想を大事にしよう。

(西洋合理主義) 永遠を目指すために堅牢な石で建物を造る(西洋合理主義)

VS

(常若) 朽ちやすい白木と萱の建物を定期的に壊して再生させ、永遠の若さを保つ。

- 古い伝統から、持続可能な智慧のヒントを探そう。
  - 脱炭素時代のヒントは、炭素が使えなかった産業革命以前の技術や智慧にもある。
  - 最先端の技術・知識に振り回されすぎない。
  - 本質(命の営みを守ること)を見極め、長期視点で考え行動する。

### ご参考

「伊勢神宮の式年遷宮『常若』から学ぶ和のサステナビリティ」(2016年6月24日)

[http://www.dir.co.jp/research/report/esg/esg-report/20160624\\_011010.html](http://www.dir.co.jp/research/report/esg/esg-report/20160624_011010.html)

青い鳥は一番身近に。

海外の先進事例のハコモノを導入するだけでなく、  
和の遺産と価値に基づく「棲家」としての街づくりこそが

この大和の地には相応しい。

御清聴ありがとうございました。

本資料は投資勧誘を意図して提供するものではありません。

本資料記載の情報は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、記載された意見や予測等は作成時点のものであり今後予告なく変更されることがあります。

(株)大和総研の親会社である(株)大和総研ホールディングスと大和証券(株)は、(株)大和証券グループ本社を親会社とする大和証券グループの会社です。

内容に関する一切の権利は(株)大和総研にあります。無断での複製・転載・転送等をご遠慮ください。